ワークショップ 6
「地域医療ワークショップ」

定員:50 名
テーマ:在宅医療で地域を変える！－地域偏在・医療の縮小化・人生会議－
講師:永井 康徳(医療法人ゆうの森 理事長)
一井 美哉子(同おもてなし室)
橋本 慶子(同理事長秘書)
谷 佳江(なごみ薬局)

医療法人ゆうの森は、2000 年に四国初の在宅専門クリニックとして、医師 1 人、看護師 1 人、事務員 2 人の職員 4 人、患者 0 人でスタートした。現在は、職員数約 100 人、多職種のチームで在宅医療を主体に 2016 年からは有床診療所、外来診療も行なっている。現在、松山市の本院での在宅患者は約 570 人。2012 年からは松山市から約 100km 離れた過疎地に、たんぽぽ俵津診療所を開業。午前中は外来を行い、在宅患者も約 60 人いる。

このたんぽぽ俵津診療所は、私が開業前に勤務していた公立のへき地診療所(前・西予市立俵津診療所)で、毎年 3,000 万円の赤字を出すため閉鎖が決まったが、旧知の住民から懇願されて当法人が運営することになり民間移譲された。この診療所は松山市から高速道路経由で車で約 1 時間の場所だが、当院の当番システムを応用して 24 時間対応の在宅医療を提供している。
都市部の診療所に在籍する複数のドクターが交代で勤務することで、24 時間 365 日対応のへき地診療所運営を安定的かつ継続的に行うという、類のない新しい形態や、地域との共生を図る様々な取組みで、「最期まで安心して暮らし続けることのできる地域の創出」を図り、全国の多くの過疎地域で直面する「医療の空洞化」解決のモデルケースとなりうることを目指した。

様々な運営の工夫や同地域への在宅医療の導入により黒字化を果たし、さらには同地域の医療費全体の低減、黒字化による補助金(税金)の削減等に寄与し、またその後に開設された介護施設と併せ、過疎化が進む同地域に新規雇用を生み出すなどの成果を上げている。

この取組みを通して、医師が疲弊しないシステムを構築できれば、へき地医療もやりがいを持って行えることがわかった。医師も、地域を一人で担うのは負担が重すぎるが、複数の医師で交代しながらであれば負担も軽くなり、やりがいがあるため、皆、へき地での診療をやりたいと考える。この取組みは赤字を解消して経営を成り立たせ、地域に貢献したということで第一回日本サービス大賞地方創生大臣賞を受賞した。

このワークショップでは、医療の地域偏在や医療の縮小化についてやアドバンスケアプランニングの実践としての人生会議について、グループワークを通して理解を深めたい。